

2024年3月15日

各位

株式会社 北海道銀行

令和5年度 地方創生に資する金融機関等の
「特徴的な取組事例」に係る表彰授与について

ほくほくフィナンシャルグループの北海道銀行（頭取 兼間 祐二）は、地方創生に資する取組の一つである「北海道初の酒造好適米『山田錦』栽培支援の取組～道銀・酒米プロジェクト～」が「特徴的な取組事例」として国から認定され、内閣府特命担当大臣（地方創生担当）の表彰を受けましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 「北海道初の酒造好適米『山田錦』栽培支援の取組～道銀・酒米プロジェクト～」について

今回、北海道銀行が事務局として取り組んできた「道銀・酒米プロジェクト」による酒造好適米「山田錦」の栽培支援の取り組みが「特徴的な取組事例」として認定されました。

（詳細は別紙をご参照願います。）

北海道銀行は、今後も農業生産者の多様なニーズに対し、実践的なサポートを実施することで、農業経営の成長を促進し、北海道農産物の高付加価値化や地域経済の活性化に貢献していきます。

「特徴的な取組事例」の認定及び表彰について

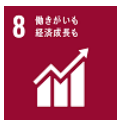
金融機関等の地方創生に資する取り組みのうち、地方公共団体等と連携している事例や先駆性のある事例などを「特徴的な取組事例」として国が認定し表彰するものです。令和5年度は、全国16事例（17金融機関）が認定され、内閣官房・内閣府総合サイト地方創生（WEB）で公表されております。

2. 表彰状授与式

2024年3月14日（木）、地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」表彰式がオンラインにて開催され、自見はなこ内閣府特命担当大臣（地方創生担当）から表彰状が授与されました。



3. 該当するSDGsの目標



SDGsは Sustainable Development Goals の略称で、2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき17の目標と169の具体的なターゲットを定めた「持続可能な開発目標」です。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

北海道銀行 アグリビジネス推進室
広報CSR室

松田 TEL(011)233-1066
坂野 TEL(011)233-1005

●.「北海道初の酒造好適米『山田錦』栽培支援の取組～道銀・酒米プロジェクト～」

(北海道銀行)

1. 取組の概要

- 寒冷地では栽培不可能とされていた酒造好適米「山田錦」の北海道初となる本格栽培への伴走支援を通じて、北海道の基幹産業である農業の新たな可能性にチャレンジする取組。収量皆無の状況から試行錯誤の末、2021年から道内酒造会社6社での試験醸造を開始、2023年に北海道産「山田錦」を商業ベースで初めて酒造会社へ販売。

2. 取組を始めるに至った経緯、動機等

- 当行は、農業経営者等を支援する専門部署「アグリビジネス推進室」を2009年に立ち上げ、「道銀・農業経営塾」やセミナー等の取組を開始。
- 「道銀・農業経営塾」第1期生である(有)加藤農場の加藤代表から、「将来の米の消費動向を見据え、それまでの主食用から加工用米へ作付品目の転換を進める中で、北海道で前例の無い「山田錦」の栽培に挑戦したい」という相談を受ける。「山田錦」は、酒米の王様とも呼ばれる最もメジャーな品種であるが、寒冷地での栽培、特に北海道では不可能と考えられていたため、仮に栽培が成功したならば大きなインパクトになり、北海道の酒造好適米にも注目を集めることができることから伴走支援を行う意義があると考え、「山田錦」の栽培支援を開始。

3. 具体的な取組内容

- 2016年に当行を事務局とする、学識経験者などを交えた推進母体である「道銀・酒米プロジェクト」を設置。プロジェクト管理、学識経験者等の協力者の招へい、財務面のアドバイスなどに取り組んだほか、プロジェクトの事務局として、以下の中枢機能を担い、取組をサポート。
 - ①兵庫県の酒造好適米である「山田錦」の栽培特性の確認や先進地を視察し情報収集を実施。
 - ②年間実施計画の策定や実施結果の取りまとめ、現地調査や意見交換会の実施。
 - ③北海道酒造組合、北海道農政事務所、札幌国税局、北海道、農業団体など関係諸機関との情報共有と連絡調整。

4. 実施にあたり工夫した点(金融機関の役割・推進体制面・PDCAサイクル面等)

- 道内で推奨されていない「山田錦」の品種名使用に向け、(有)加藤農場とともに国や道の諸機関に対して、試験栽培や試験醸造の結果、学識経験者からのレビュー等の基礎資料を取りまとめ、道内における栽培の実現可能性を説明。(有)加藤農場が独力では困難な、品種名の使用許可権を持つ国や道の諸機関との連絡調整に注力した。
- また、商業ベースの栽培が軌道に乗った際の周辺農家等との利害衝突を未然に防止するため、既存奨励品種との棲み分けに関する事前説明など農業団体等との連絡調整に注力した。

5. 取組の成果(取組中の場合は目標値・KPI等)

- 2021年に道内酒造会社6社で「山田錦」の試験醸造を開始。翌年、初めて北海道産「山田錦」を原料とする日本酒の一般販売が実現。
- 2023年には、加藤農場と酒造会社との間で、北海道産「山田錦」が原料米として初めて商業ベースで取引(販売)されることとなり、年間取引数量(玄米)は、17,820kgとなった。
- 今後は、北海道産「山田錦」の安定供給と品質向上に努め、北海道産「山田錦」を海外へ輸出していくことも目標としている。

6. スキーム図等



北海道初の山田錦栽培に挑む！

「道銀・酒米プロジェクト」



豊かな実りの前で、道銀・酒米プロジェクトと酒造会社のメンバーたち(2023年9月)

構成機関	役割
代表 松井 博和(元北海道大学農学部長)	学識経験者
副代表 西山 泰正(元北海道農政部長)	学識経験者
有限会社 加藤農場	生産農場
NTTコミュニケーションズ株式会社 北海道支社	情報協力
農林水産省 北海道農政事務所	オブザーバー
株式会社 北海道銀行	事務局



年度	トピックス	作付面積	収量
2016年	和歌山県の種苗会社から種子購入し中苗で栽培するも <u>ほぼ実らず</u>	33a	屑粳1.2kg
2017年	<u>前年収穫の屑粳</u> を種粳として成苗で栽培し成熟粳を収穫	54株	成熟粳2.2kg
2018年	前年の種粳を栽培し半熟粳を収穫、DNA分析で4割がうるち米と判明	10a	半熟粳81kg
2019年	前年の種粳を栽培し原料米収穫、DNA分析で山田錦を選別	混米32a 純粋2a	1,140kg 10kg
2020年	前年の純粋種粳を栽培し道産100%山田錦を確保、DNA分析確認済み	純粋25a	1,400kg
2021年	試験醸造を希望する酒造6社に道産山田錦の原料米を無償提供	210a	11,400kg
2022年	前年の道産山田錦の試験醸造酒を6社で発売(試験醸造2年目)	330a	18,000kg
2023年	当年産山田錦の原料用米を初めて商業ベースで酒造会社へ販売	366a	17,820kg

道産の山田錦で試験醸造を行う酒蔵



試験醸造酒発表会(2022年7月)

